

十三 復興工事

「夙川の桜も墨染に」と願う一九九五年であった。一月一七日夜もまだ明けやらぬ午前五時四六分、阪神・淡路地区を襲った大震災は、甲陽学院の生徒、その肉親、同窓会々員、そして前理事長にまで犠牲を強いた。それらの尊い御霊に対し心から哀悼の意を捧げるとともに、多くの被災された方々に対し御見舞を申し上げる次第である。

この大災害に際し、温かい御見舞や励まし、又物心両面にわたるご支援を頂いた同窓会、保護者各位、辰馬本家酒造株式会社をはじめ関係業界の方々に、改めて厚く御礼を申し上げる。

さて、この震災による当学院の被害は決して小さくはなかったが、中学校は新校舎の建築により、ハード面では学校運営上大きな支障がなかったことは不幸中の幸といえる。以下に施設の被災、その後の修理状況について簡単に説明しよう。

当校は、東校舎敷地、西校舎敷地及びグラウンドが東西

に長く連続しており、いずれも土地の沈下が著しい。建物の沈下は、講堂、西校舎の管理棟・芸術棟が最もひどい。管理棟、芸術棟、それにプール棟を加え、その沈下が一二―一五センチメートルに及んだ。完成直後に地震に見舞われたプール棟の被災は大きく、水を張りテストも終了したが、一回も泳ぐことなく、壊滅的なダメージを受けた。

東教室棟の地盤沈下、あるいは隆起により、屋外より室内への雨水勾配となっている。

グラウンドは、液化化現象により、防球フェンスを支える鉄製の支柱及びバックネット支柱の傾斜がきつく、完全に使用できる状態ではなかった。テニスコートの面は、クラックにより使用不能状態となり、西側コンクリートブロック塀も傾斜及び沈下、崩壊するものあり、近付くことも危険という状態であった。また、校舎外周の石垣及び縁石も、土地の移動により崩壊したものが多かった。

一月二五日、震災後初の、中学校・高等学校校合同の職員会議を開催し、地震災害に関する報告が各自よりなさ

れ、一月三〇日(月)、午後零時三〇分に教職員、午後一時に生徒を登校させることが決定し、授業は、二月一日(水)より、登校可能な者のみで再開することで結論を得た。よって、早速に兵庫建設株式会社に依頼して、教職員・生徒が安全を確保できるよう最低限の修理にとりかかってもらった。復旧事業費は膨大な金額が見積られ、その二分の一が国庫補助されることが決定した。文部大臣宛に直ちに事前着工届を提出、引き続いて、多種多様な届出書を作成提出した。

(山本 雅彦)

震災による校舎被害総額は、中学校が約一億五千万円、高校が約七五〇万円であった。一九九五年六月二八日、文部省から二名、大蔵省から一名、兵庫県から一名、計四名が中学を、翌日には高校を視察し、被害総額の約半分が補助されることに決定した。

西校舎は一〇月末までに工事完了した。オーバーブリッジは七月に設置が決定し、グラウンドと西校舎を結ぶも

のは翌年三月一日に竣工し、東西校舎を結ぶものは九月二日に竣工した。後者の工事着手は森具川の改修工事を待たねばならなかった。

また、中学校の運動部室は一九九五年九月一日に完成した。プールは建設中に震災に会い、一部工事をやり直したため、一九九五年六月一六日に漸くプール開きが催された。

中学校の中庭は一九九六年一〇月半ばに整備が終り、ここに中学校第二期工事がすべて完了した。

震災とは直接関係しないが、高校は一九九五年九月一日に、家庭科教室が完成し、生徒のロッカー設置も完了した。冷房は一九九六年九月一日から使用されている。

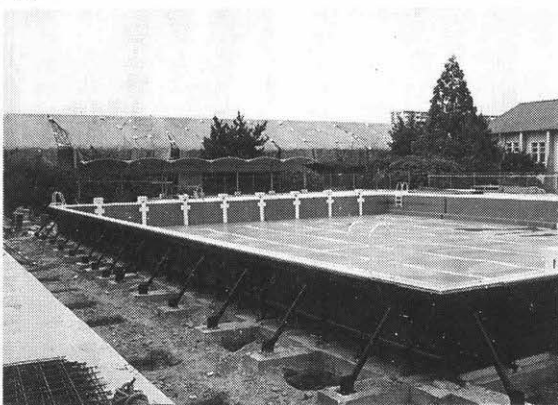
(山内 英正)



講堂 1995. 5. 20



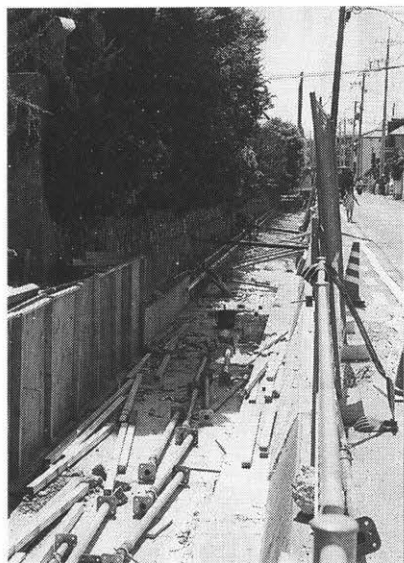
プール工事中 1995. 5. 20



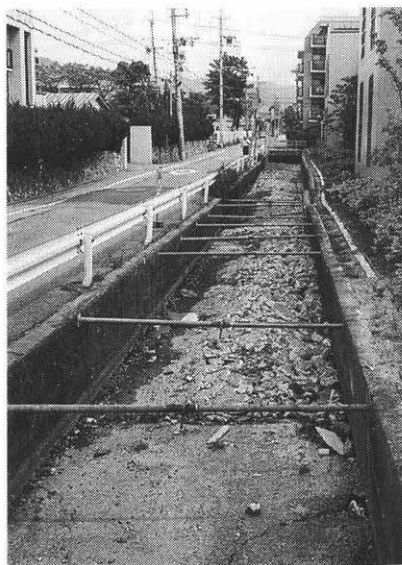
プール工事中 1995. 5. 20



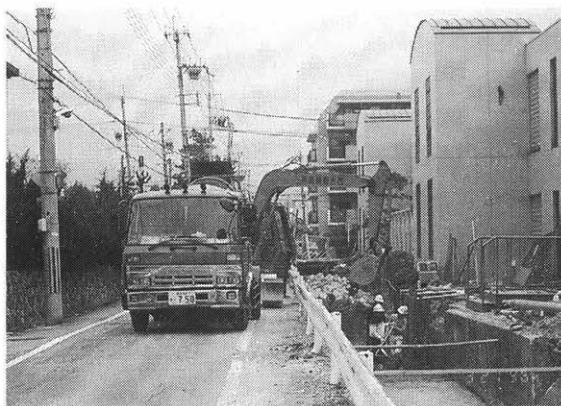
プール開き 1995. 6. 16



西校舎北の溝 1995. 6. 6



森具川 1995. 5. 20



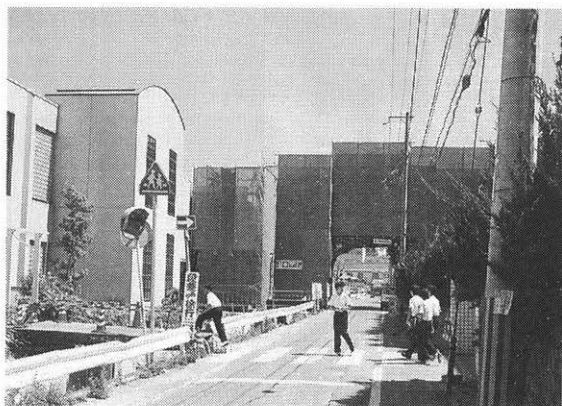
森具川改修工事 1996. 3. 21



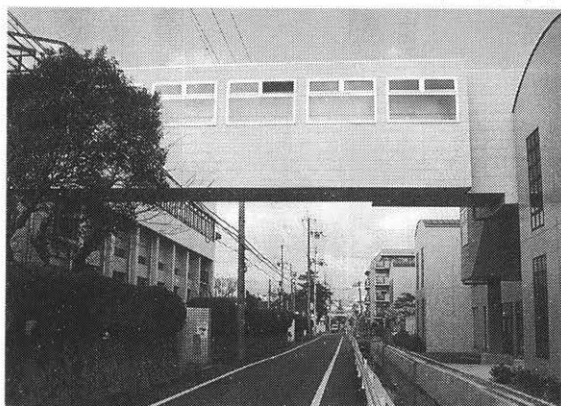
森具川改修工事 1996. 3. 21



森具川（改修後） 1996. 12. 1



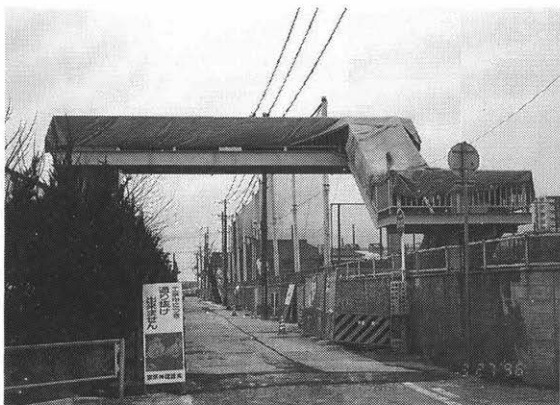
オーバブリッジ工事中 1996. 6. 6



オーバブリッジ—西校舎・東校舎— 1996. 12. 1



西校舎の西の道路 1996. 3. 27



オーバブリッジ工事中 1996. 3. 27



オーバブリッジグランド・西校舎ー 1996. 12. 1



中学校中庭 1996. 12. 1

十四 震災資料

1. 資料目録

甲陽学院教職員兵庫県南部地震災害状況〔一九九五年一月一八日午後一時現在〕

甲陽学院教職員兵庫県南部地震災害状況〔一九九五年一月二〇日〕

教職員ご消息

震災見舞来校者名簿

第一回被害状況調査票

会議招集の件

調査書連絡先

甲陽学院教職員兵庫県南部地震災害状況〔一九九五年一月二三日〕※兵庫県私立中学高等学校連合会宛 FAX送信

兵庫県南部地震に係る物的被害に関する報告〔一九九五年一月二三日〕※兵庫県総務部教育課宛 FAX送信

兵庫県南部地震災害甲陽学院教職員災害状況（No.3）〔一九九五年一月二四日〕

中学生安否確認名表

中学二年D組連絡先等記述名表

一九九四（平成六）年度三学期行事変更案《中学校》〔一九九五年一月二五日〕

一九九四年度第三学期行事変更案《高等学校》〔一九九五年一月二五日〕

兵庫県南部地震に関する合同職員会議〔一九九五年一月二五日〕

兵庫県南部地震災害調査表（教職員用）〔一九九五年一月二五日〕

兵庫県南部地震災害調査表（職員用）〔一九九五年一月二五日調査分〕

甲陽学院中学校・高等学校 地震災害に関する報告（No.2）〔一九九五年一月三〇日〕

※兵庫県私立中学高等学校連合会・兵庫県総務部教育課私学第一係宛 FAX送信

甲陽学院高等学校生徒諸君へ〔一九九五年一月三〇日〕

甲陽学院高等学校第三学年生徒諸君へのお知らせ《第三学年担任一同》

被災生徒の教科書必要調査調査表《高等学校》

甲陽学院中学校・高等学校からのお知らせ

甲陽学院中学校から入試日程変更のお知らせ・甲陽学院高等学校から入試日程変更のお知らせ

※FAX送信 読売新聞社社会部・朝日新聞社社会部

甲陽学院中学校受験生のみなさんへ〔『朝日新聞』一九九五年一月二九日〕

甲陽学院高等学校受験生のみなさんへ〔『朝日新聞』一九九五年一月三〇日〕

甲陽学院中学校生徒諸君へ〔一九九五年一月三〇日〕

甲陽学院高等学校生徒諸君へ〔一九九五年一月三〇日〕※草稿

甲陽学院高等学校生徒諸君へ〔一九九五年一月三〇日〕

大学受験生宿泊所の件《辰馬本家酒造》〔一九九五年一月三〇日〕※FAX受信

校内清掃についてのアンケート《高等学校生徒指導部》〔一九九五年一月三〇日〕

中学生徒出席者調査一覧〔一九九五年一月三〇日午後二時現在〕

一月三〇日（月）HRのすすめ方（最新版）〔一九九五年一月三〇日〕

兵庫県南部地震災害調査表（生徒用）〔一九九五年一月三〇日〕

自転車通学の注意と申請について《高等学校生徒指導部》

地震災害・お見舞（電報・手紙等）《辰馬本家酒造》〔一九九五年一月三一日作成〕※FAX受信

一九九四年度授業時間表 No.(特)1（一九九五・二・一）《高等学校》

学校法人辰馬育英会甲陽学院高等学校一九九四年度第三学期行事予定表（改）生徒用

南甲子園社宅 学校教職員入居者名簿〔一九九五年二月一日〕

阪神大震災による生徒被害状況《高等学校》〔一九九五年二月一日〕

一・二年生育友会運営委員会《高等学校》〔一九九五年二月一日〕

甲陽学院中学校・高等学校 地震災害に関する報告（No.1）〔一九九五年二月一日〕※育友会役員会

平成六年度国庫補助（申請）対象物にかかわる物的被害状況調 〔一九九五年二月一日〕

※兵庫県総務部教育課私学第一係宛 FAX送信

文部省大学入試室からの依頼事項〔一九九五年二月二日〕※FAX送信

甲陽学院中学校・高等学校 兵庫県南部地震災害調査一覧 〔一九九五年二月三日〕

中学校への見舞い訪問者一覧 〔一九九五年二月〕※中学校事務長メモ書き

地震について※中学生への注意事項

甲陽学院中学校・高等学校生徒被害調査 〔一九九五年二月三日〕※調査用紙

中学生・高校一～二年生への学校からの支援事項決定 〔一九九五年二月四日〕※中学校事務長メモ書き

事前着工届について、六年度中に復旧工事を完了する予定の事業等調 〔一九九五年二月四日〕

甲陽学院中学校・高等学校 兵庫県南部地震に関する生徒特別予算について 〔一九九五年二月六日〕

地震災害に関する報告 〔一九九五年二月六日〕 ※保護者宛

改訂一九九四年度授業時間表 No(特)2 (一九九五・二・六) 《高等学校》

一九九四(平成六)年度授業時間割原案(その二) ―週四日制― 《中学校》

一九九四(平成六)年度授業時間割 その五 三学期 二月六日 《中学校》

事前着工届について 〔一九九五年二月七日〕 ※文部大臣宛

被災に因る転学者・避難者等調査 〔一九九五年二月七日〕 ※兵庫県総務部教育課私学第一係宛

義援金一覧 〔一九九五年二月〕

甲陽学院中学校・高等学校 兵庫県南部地震災害に関する特別校務分掌 〔一九九五年二月七日〕

一九九四年度授業時間表 No(特)3 (一九九五・二・九) 《高等学校》

入学志願者へのお知らせ 《中学校》 〔一九九五年二月一〇日〕

依頼状 〔一九九五年二月一〇日〕 ※小学校長・第六学年担任宛

礼状 〔一九九五年二月一三日〕 ※見舞金提供者宛

学校体育諸施設(プール)補助対象物にかかる物的被害状況報告 〔一九九五年二月一四日〕※兵庫県総務部教育課長宛

甲陽学院中学校・高等学校 阪神大震災 災害生徒救済特別会計 〔一九九五年二月〕

阪神大震災による生徒被害状況 《高等学校》 〔一九九五年二月一五日〕

お見舞状 〔一九九五年二月一六日〕 ※育友会員宛

阪神大震災見舞い生徒一覧(家屋被害) 《高等学校》 〔一九九五年二月一七日〕

甲陽学院中学校・高等学校 阪神大震災による校舎その他応急処理対策(第二次) 〔一九九五年二月二一日〕

奥野正弘君と同御両親の御葬儀についてのお知らせ 〔一九九五年二月二一日〕

奥野正弘君の御葬儀に参列される方へ 〔一九九五年二月二三日〕

学校で定められた物品のない生徒 〔一九九五年二月二四日〕 ※最終報告

ご連絡《高等学校》 〔一九九五年二月二八日〕 ※学校納付金減免または納付期日延長について

入学金・施設充実費の納付期限延長願 〔一九九五年三月四日〕

甲陽学院中学校・高等学校 阪神大震災 災害生徒救済特別会計 〔一九九五年三月〕

一九九四年度授業時間表 No.(特)4 〔一九九五・三・六〕《高等学校》 〔一九九五年三月六日〕

阪神大震災見舞い生徒一覧(家屋被害) 《高等学校》 〔一九九五年三月七日〕

阪神大震災見舞い生徒一覧(家屋被害) 《中学校》 〔一九九五年三月七日〕

欠席日数・欠課時数の扱いについて 《高等学校》 〔一九九五年三月八日〕

平成六年度卒業式要領《高等学校》 〔一九九五年三月八日〕 ※三月二四日実施

職員住宅補修について 〔一九九五年三月一六日〕

南甲子園社宅 学校教職員入居者名簿 〔一九九五年三月一七日〕

授業料・入学金免除に関する調査 〔一九九五年三月二〇日〕

クラブ活動の再開について 《高等学校》 〔一九九五年三月二〇日〕

被災中学生物品購入一覧 〔一九九五年三月〕

保護者からの礼状（七件）〔一九九五年三月〕

保護者からの礼状（四件）〔一九九五年四月〕

中学三年生居住地調査名表〔一九九五年四月〕

ご案内〔一九九五年四月一日〕※創立記念音楽会開催

創立記念音楽会開催方法の変更についてのお願ひ〔一九九五年四月二二日〕

『甲陽―阪神大震災特集―』第三三号〔甲陽学院高等学校出版委員会、一九九五年五月一七日〕
職員住宅補修について〔一九九五年五月二四日〕

『校報 一九九四年度』第一三三号〔甲陽学院高等学校・中学校、一九九五年五月三〇日〕
礼状・関連書類〔一九九五年六月〕※神戸市教育委員会事務局庶務課宛

礼状〔一九九五年六月〕※MARCH OF THE MUSIC 実行委員会宛

被災状況調査表《中学校・高等学校》〔一九九五年六月〕

被災生徒教育助成金交付申請書提出について〔一九九五年六月一五日〕※草稿

被災生徒教育助成金交付申請書提出について〔一九九五年六月二六日〕

阪神・淡路大震災授業料等特別軽減適用者一覧《高等学校》〔一九九五年七月二一日〕

各市教育委員会宛提出（送付）入学金・教科書助成交付申請〔一九九五年七月二二日〕

二期期の始業時刻正常化について《中学校》〔一九九五年七月二四日〕

『甲陽だより』第五五号〔甲陽学院同窓会、一九九五年七月二四日〕※大震災被害状況を添付

阪神・淡路大震災に係る入学料授業料等の特別軽減の実施状況について〔一九九五年一二月七日〕

阪神・淡路大震災に係る入学料授業料等の特別軽減の実施状況について 〔一九九五年二月一九日〕

「公益信託阪神・淡路大震災遺児就学援助基金」平成七年度教育活動助成金使用報告書 〔一九九六年一月二〇日〕

☆ ☆ ☆

見舞状《帝国書院》 〔一九九五年一月一八日消印〕 ※書簡

見舞状《日本漢字能力検定協会》 〔一九九五年一月一九日消印〕 ※書簡

見舞状《大成出版社》 〔一九九五年一月一九日消印〕 ※書簡

兵庫県南部地震による被害状況（私立小・中・高） 〔一九九五年一月二〇日午後二時現在〕 ※FAX受信

兵庫県南部地震に係る物的被害に関する報告について《兵庫県総務部教育課》 〔一九九五年一月二二日〕 ※FAX受信

お知らせ《朝日広告社大阪支社》 〔一九九五年一月二三日〕 ※FAX受信

兵庫県南部地震によるお見舞い《イワタ事務機器》 〔一九九五年一月〕 ※書簡

災害お見舞い《一橋出版》 〔一九九五年一月二四日〕 ※書簡

被害報告《関西学院中学部副部长 尾崎八郎》 〔一九九五年一月二五日〕 ※書簡

現況報告《六甲出版》 〔一九九五年一月二二日〕 ※書簡

建築技術者の派遣について《兵庫県総務部教育課》 〔一九九五年一月二六日〕 ※FAX受信

甲陽学院中学校西校舎の構造チェック報告《ISS建築設計事務所》 〔一九九五年一月二六日〕 ※FAX受信

平成七年兵庫県南部地震において被災した生徒に係る高等学校入学者選抜等における配慮について（通知）

《文部省初等中等教育局長》 〔一九九五年一月二六日〕 ※FAX受信

平成七年兵庫県南部地震において被災した生徒に係る高等学校入学者選抜等における配慮について（依頼）

《兵庫県総務部教育課長》〔一九九五年一月三一日〕※FAX受信

見舞状《六甲出版》〔一九九五年一月二七日〕※書簡

見舞状《昭和リース神戸支店》〔一九九五年一月二六日〕※書簡

災害見舞金等の給付について《共済組合・学校厚生会》〔一九九五年一月二八日〕※FAX受信

被害生徒の教科書等必要数の調査について《兵庫県総務部教育課長》〔一九九五年一月二八日〕

副教材無償提供について《帝国書院》〔一九九五年一月三〇日〕※書簡

私立学校施設の災害復旧事業について《兵庫県総務部教育課私学第一係》〔一九九五年二月一日〕※FAX受信

甲陽学院中学地震被害状況《コクヨ神戸》〔一九九五年二月三日〕※FAX受信

システム機器調査報告書《エルモ》〔一九九五年二月三日〕※FAX受信

入学金並びに諸費納入延期等に関する件について《兵庫県私立中学高等学校連合会》〔一九九五年二月八日〕

被災に因る転学者・避難者等調査《兵庫県総務部教育課私学第一係》〔一九九五年二月八日〕

私立学校施設災害復旧事業に係る事務処理説明会の開催について《兵庫県総務部教育課長》

〔一九九五年二月一〇日〕

励ましの手紙《マニラ日本人学校児童生徒会》〔一九九五年二月一〇日〕

励ましの手紙《世田谷区立富士中学校三年代表》〔一九九五年二月〕

私立学校施設災害復旧事業の概要報告について《兵庫県総務部教育課長》〔一九九五年二月一二日〕

被災児童・生徒への学用品等の給付について《芦屋市教育委員会》〔一九九五年二月一三日〕

兵庫県南部地震による災害に係る復旧事業計画書の提出について《通知》《兵庫県総務部教育課長》

〔一九九五年二月一七日〕

私立学校施設災害復旧事業に係る事務処理説明会〔一九九五年二月一七日〕※三田学園小寺ホールで実施
私立学校における入学料・授業料等の軽減に対する特別対策について《兵庫県総務部教育課長》

〔一九九五年二月二〇日〕

民間避難施設に対する今後の意向調査について（お願い）《西宮市災害対策本部》〔一九九五年二月 日〕
物的被害に関する報告について《兵庫県総務部教育課》〔一九九五年三月二〇日〕

私立学校施設災害復旧事業に係る事務処理説明会の開催について《兵庫県総務部教育課長》

〔一九九五年三月二八日〕

私立学校施設災害復旧事業に係る事務処理説明会〔一九九五年四月五日〕※兵庫県私学会館大ホールで実施

阪神・淡路大震災に係る復旧事業計画書の提出について《兵庫県総務部教育課長》〔一九九五年四月七日〕

学校音楽教材の支援寄付金の配分について《神戸市教育長》〔一九九五年四月一〇日〕

「平成七年七月一七日阪神・淡路大震災記録集（生徒作文）」の原稿依頼について

《兵庫県高等学校生徒指導協議会》〔一九九五年五月一日〕

平成七年度私立学校基礎資料調査説明会及び私立高等学校生徒授業料軽減事務説明会の開催について

《兵庫県総務部教育課長》〔一九九五年五月一五日〕

音楽教材の支援寄附金の受領について《神戸市教育委員会事務局》〔一九九五年六月六日〕

阪神・淡路大震災による災害復旧事業現地調査の実施について（通知）《兵庫県総務部教育課長》

〔一九九五年六月八日〕

児童・生徒に対する義援金の配分について《兵庫県総務部教育課長》〔一九九五年六月二二日〕

被災児童・生徒に対する義援金の配分について《兵庫県南部地震災害義援金募集委員会事務局長》

〔一九九五年六月二二日〕

『兵庫県南部地震・私立学校記録集』作成のためのアンケートについて（お願い）

《兵庫県私立中学高等学校連合会》〔一九九五年六月二七日〕

平成七年度私立高等学校・中学校・小学校基礎資料調査における授業料軽減特別補助に係る提示書類等について

《兵庫県総務部教育課私学第一係長》〔一九九五年七月四日〕

平成七年度私立学校建物其他災害復旧費補助金交付申請書〔一九九五年七月 日〕※文部大臣宛

送品明細書《兵庫県教科書株式会社》〔一九九五年七月六日〕※中学校宛、消失教科書

御礼とご報告《松蔭中学高等学校校長 中塩健彦》〔一九九五年七月一〇日〕※アンケート結果報告

送品明細書《兵庫県教科書株式会社》〔一九九五年七月二〇日〕※中学校宛、消失教科書

阪神・淡路大震における水泳プールの被害状況調査について《兵庫県総務部教育課私学第一係長》

〔一九九五年七月一九日〕

送品明細書《兵庫県教科書株式会社》〔一九九五年七月二〇日〕※中学校宛、消失教科書

被災生徒教育助成金交付申請書提出の件〔一九九五年七月二二日〕※神戸市教育委員会宛

阪神大震災における学校の被災状況とその地域社会に果たした役割―アンケート調査のお願い―

《愛知工業大学建築学科建部研究室・東京都立大学建築学科上野研究室》〔一九九五年七月〕

阪神・淡路大震災後の事業所動向調査のお願い《兵庫県労働部》〔一九九五年七月〕

被災児童・生徒教育助成金の支給について（依頼）《神戸市教育長》〔一九九五年七月三日〕

「災害復旧関連調査」について（依頼）《兵庫県私学総連合会》〔一九九五年七月一七日〕

震災後における私学復興の支援等について〔一九九五年七月三一日〕

平成七年度私立学校建物其他災害復旧費補助金の内示について（通知）《兵庫県総務部教育課長》

〔一九九五年八月一〇日〕

阪神・淡路大震災関連資料の収集について（依頼）《兵庫県教育長》〔一九九五年九月七日〕

貴校の地震被害に関するアンケート調査の依頼《筑波大学構造工学系》〔一九九五年一〇月二六日〕

「公益信託阪神・淡路大震災遺児就学援助基金」について《兵庫県総務部教育課長》〔一九九五年一〇月三一日〕

「公益信託阪神・淡路大震災遺児就学援助基金」発足《三井信託銀行》〔一九九五年一二月一日〕

公益信託阪神・淡路大震災遺児育英基金の奨学生の募集について（ご案内）《三井信託銀行》

〔一九九五年一二月一三日〕

阪神・淡路大震災に係る入学料授業料等の特別軽減の実施状況について（照会）《兵庫県総務部教育課長》

〔一九九五年一二月一四日〕

地震被害の現地調査の協力依頼《筑波大学構造工学系》〔一九九五年一二月一六日〕

NIE用特集紙面「震災一周年特集」申し込み受付のご案内《朝日新聞大阪本社》〔一九九五年一二月〕

「阪神・淡路大震災遺児就学援助基金」発足の案内《住友信託銀行神戸支店》〔一九九五年一二月〕

平成七年度私立学校建物其他災害復旧国庫補助金に係る完了（予定）状況について《兵庫県総務部教育課長》

〔一九九五年一二月一二日〕

私立学校（小学校・中学校・高等学校）における入学科・授業料等の軽減に対する特別補助について

《兵庫県総務部教育課長》〔一九九五年二月二日〕

阪神・淡路大震災に係る入学科授業料等の特別軽減の実施状況について（照会）《兵庫県総務部教育課長》

〔一九九五年二月二日〕

平成七年度私立学校建物其他災害復旧国庫補助金に係る完了検査の実施について（通知）《兵庫県総務部教育課長》

〔一九九五年二月二七日〕

「公益信託阪神・淡路大震災遺児就学援助基金」教育活動助成金振込のお知らせ《住友信託銀行神戸支店》

〔一九九六年一月八日〕

平成七年度私立学校建物其他災害復旧国庫補助金の交付決定について（通知）《兵庫県総務部教育課長》

〔一九九六年二月二四日〕

阪神・淡路大震災遺児等育英資金について《兵庫県教育委員会事務局総務課長》〔一九九六年三月一日〕

兵庫県南部地震私立学校記録集の送付について《兵庫県私立中学高等学校連合会》〔一九九六年三月一五日〕

平成七年度私立学校建物其他災害復旧国庫補助金の実績報告書及び請求書の提出について《兵庫県総務部教育課長》

〔一九九六年三月二日〕

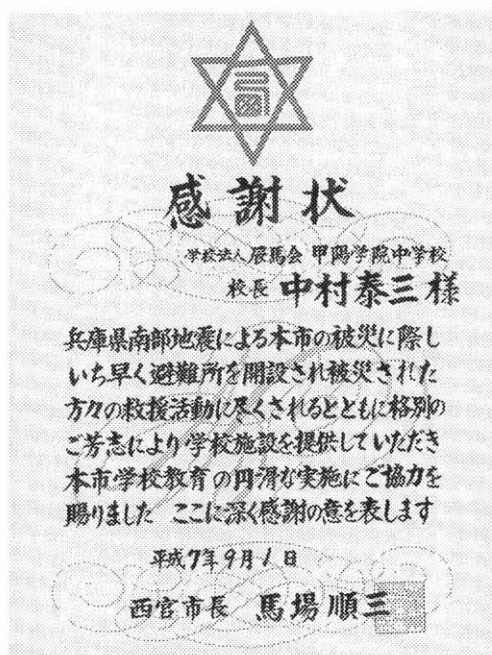
「わかば奨学金」の給付について《わかば奨学基金》〔一九九六年四月一日〕

アンケート調査の依頼《中塩健彦》〔一九九六年五月一〇日〕

アンケートの御礼と報告《中塩健彦》〔一九九六年七月一五日〕

（山内 英正）

＊辰馬会は辰馬育英会の誤記。



高等学校教職員 各位

校長 中村泰三

会議招集の件

下記の通り緊急会議を開催します。

教員の皆さんは、全員出席下さい。

1. 日時：1月25日 13:00～

2. 場所：中学校会議室

3. 留守番：事務（森、足立）

4. 事務：工藤、松井 出来れば出席のこと

以上

兵庫県私立中学高等学校連合会御中

甲陽学院中学高等学校、 兵庫県南部地震災害状況 1995.1.23

教職員 教諭、時間講師、臨時職員（82名） 全員無事

家屋全壊 2名 移転先（法人社宅、親宅）

半壊 1名 （法人社宅）

近隣傾斜 11名 （法人社宅）

災害教員住宅関係 終了

生徒関係 死亡 中学1年 奥野正弘（神戸市灘区）両親ご逝去
姉 生存

家屋全壊、半壊 調査中

日程 17日（火曜） 21日まで 休校決定、各学年連絡網安否
18日（水曜） 28日まで 休校決定 確認、
高校3年担任のみ交替出勤。
20日（金曜） 25日（水曜）1時 中高合同職員会議（中学

* 生徒連絡 進行中（約90% 確認済）
25日（水曜） 1時 中高合同職員会議 今後日程検討

予定 30日（月曜） 中学 10時登校 安否確認

高校 10時登校 安否確認
（1、2年生）
（3年生） 23日から 確認

その他の日程 未定

* 中学校 西宮地区 待避所（柔道場、剣道場、約260名）

* 学校 被害状況 調査中（写真撮影済）

以上

甲陽学院中学校高等学校
校長 中村泰三

兵庫県南部地震災害調査表 (職員用)

1995.1.25 調査分



高等学校 回収 34名

中学 回収 27名

避難した者 11名

避難した者 9名

1 家屋の被害状況について

a 自宅	21名	17名
b 借家	2名	5名
c 社宅	11名	5名
d 火災による被害	2名	1名
f 全壊	1名(喜多)	3名
g 半壊	4名	1名
h 家屋被害なし	28名	21名
(本箱, 家具, 食器, 他. は除く)		

2 家族の状況について

全員 無事 29名	家族 負傷 3名	全員無事 20名	家族他
	(重傷 なし)	家族 妻 重傷.	
		親 軽傷 など	

3 ご希望 一時貸付金 2名

ご希望
通勤困難 単身勤務予定 2名

今後の日程

1月30日(月) 13.00 中学, 高校とも 生徒登校
安否確認, その結果をみて, 2月1日(水)から授業
1日(4時間位)を行う。但し, 中学においては,
通学の安全を確認する。

*災害にともなう特別校務分掌

総責任者 中村

高等学校に関する日程の検討

責任者 山田教頭

運営 山下, 静, 森.

中学校 に関する日程の検討

責任者 石川教頭

運営 大川, 大野, 山本

渉外, 法人連絡, 教職員関係,
対 学年関係

学年主任

中学校避難住民 対策

山本事務長

*南甲子園寮 責任者

静(115号)

1/28, 校長より
(14:10)
この災害調査表を
教職員全員に配布する様
指示あり, 各机上に
置きました
森

1995年1月30日

甲陽学院高等学校生徒諸君へ

甲陽学院高等学校

兵庫南部地震による災害のため、3学期の行事を下記のように変更します。

記

(1) 1月30日(月) 13:00 生徒登校

(2) 2月 1日(水) 授業再開

10:00 予 鈴

10:05 朝 礼

10:10~11:00 第1限

11:10~12:00 第2限

12:00~12:45 昼休み

12:45 予 鈴

12:50~13:40 第3限

13:50~14:40 第4限

14:40 終 礼

当分の間クラブ活動は禁止する

(3) 2月10日(金)の卒業式は、3月24日(金)に変更する

(3) 耐寒駆け足、耐寒登山は中止する

(4) 学年末考査は中止する

(5) 授業最終日 3月22日(水)

(6) 終業式 3月23日(木) (予定通り)

(7) 登校困難な生徒は公認欠席とする

(8) 中学入試、高校入試については右のように変更する

以上

中学入試

考査番号票	3月1日(水) 講堂にて直接手渡し	
筆答考査 第1日	3月1日(水) 9:30集合	
	国 語	11:10~12:05
	算 数	13:10~14:05
	理 科	14:30~15:25
筆答考査 第2日	3月2日(木) 10:00 集合	
	国 語	11:00~11:55
	算 数	13:00~13:55
面 接	中 止	
合 格 発 表	3月3日(金)	
入学手続き	3月11日(土) 14:00~	

高校入試

出 願 期 間	2月13日(月)~2月17日(金)	
筆答考査 第1日	2月26日(日) 10:00 集合	
	国 語	10:50~12:00
	数 学	13:00~14:30
筆答考査 第2日	2月27日(月) 10:00 集合	
	英 語	10:40~12:00
	理 科	13:00~14:00
面 接	中 止	
合 格 発 表	2月28日(火)	
入学手続き	3月4日(土) 14:00~	
新入生補習	中 止	

1月30日(月)HRのすめ方
(最新版)

用意する
プリント

- ・交通事情のプリント (5)で掲示
- ・地震被害調査表 (5)で配布、後日回収
- ・自転車通学申請 (5)で配布、後日回収
- ・生徒諸君へ (7)で配布

- (1) (13:00)出席点呼
- (2)全校放送(黙秘)

この時点での出席者()人のうち、

- (3) 2月1日以降の登校についての調査
 - a 10時に登校可能な者 ()人
 - b 10時には登校不可能だが11時には登校可能な者 ()人
 - c 現状では登校不可能な者 ()人
- (4) 担任は会議室に(3)の結果を報告し、HRに戻る(学年主任は会議室に残り、職員協議に参加)
(HRで)(各学年A組は学年副担任が担当) 交通事情のプリント 掲示
自転車通学申請 配布(後日回収) 地震被害調査表 配布(後日回収) 特別事情の聞き取り
- (6) (放送により会議室に集合して)職員会議(当面の予定・対応策、本日の連絡事項など協議)
その間、生徒は教室で待機。(調査表仕上げ)
- (7) (HRで)生徒への連絡・諸注意 プリント「甲陽学院中学校生徒諸君へ」配布
- (8) 解散 (必要に応じ最小限に)掃除

1月30日(月)HR連絡事項 (プリント「生徒諸君へ」の追加・補遺)

- ① 体育館・柔道場は、現在、地震で被害を受けた方々が入っておられる。その方々に気持ちよく利用していただけるように心がけよう。
したがって、西校舎に本校生は立ち入り禁止。東校舎から西校舎への通路・橋も使用禁止。
- ② 登校に危険や困難がある場合は、担任(学校)に連絡の上、登校を見合わせることに。
- ③ 本日記入してもらった調査表の「本日現在の生徒住所 電話番号」をもとに担任がクラス連絡網を最新のものにすると、これを十分に利用できるものにするために、今後「生徒住所 電話番号」の変更の際には早めに担任(学校)に知らせること。
- ④ 事情により自転車通学を新たに希望する者は、許可条件を満たす者に限り、所定の手続きをとり許可を受けること。交通が混雑し危険な折なので、自転車で通学する際は十分に注意しよう。
(新たな希望者は、本日の調査表の4の「方法」欄に「自転車」と記入した上、「自転車」という字を○で囲んでおくこと)
置き場所は、全員(従来許可されていた者も含めて)グラウンドのテニスコート西側にする予定。
- ⑤ 目下、断水中であり食堂が利用できない。各自で、飲料水(水筒で)・昼食(弁当・パン・牛乳など)を用意してくること。
- ⑥ トイレでは、小はそのまま、大は使用後備え付けのバケツの水で各自完全に流すこと。
- ⑦ 2月1日(水)の授業は、各教科ともプリントなどを使用し、筆記具があれば受けられるようにしている。なお、以後各教科に必要な教材・教具等については、1日に連絡する。
- ⑧ 災害の被害により制服が着用できない者は、私服を着用して登校してもかまわない。
- ⑨ 災害の被害により検定教科書がない者は、この場で調査するので該当分について挙手すること。
(別紙により調査・記入し、結果は後刻森口先生へ提出)
これ以外の教材の不足分については、後日各教科の授業で調査し、善後策も指示する予定。
- ⑩ 定期券の購入希望者は、HRの後、事務室で申し出ること。
(購入のための証明書を渡すのは、希望人数が少なければ本日、多すぎると2月1日のHR。)
- ⑪ (HR後、必要に応じ最小限に)教室その他の掃除を行うこと。
- ⑫ その他

甲陽学院高等学校第三学年生徒諸君へのお知らせ

前略

この度の大震災によりまして、様々な方面に被害を受け、学校の方もしばらく活動ができない状態でありましたが、その中でこの学年の生徒全員の無事が確認でき、何とか出願のための調査書もお渡しすることができましたことを、何よりも嬉しく思っています。

ようやく2月1日より、1日4時間ではありますが、1・2年生に対して授業を再開できることとなりました。第三学期の行事も大幅に変更せざるを得なくなりましたので、第三学年に関することにつきまして、とりあえず連絡いたします。

3年生に対する補習は行いません。

卒業式は3月24日の11時から行われることとなりました。そのための準備などで登校してもらうことが難しいので、生徒諸君はこの日の10時に登校してください。卒業式の直前に説明・連絡など致したいと思います。出席できない場合は当日までに連絡して下さい。

大学受験の可否については、必ず学校の方に連絡して下さい。進学資料室の方から、受験番号を問い合わせるはがきが届く予定ですが、届きましたら、必ず受験番号を記入してそのはがきを返送して下さい。

各方面から、住居のことで困っている受験生に対して、受験期間が過ぎるまでホームステイなどで世話をしたいという申し出が寄せられています。ご希望でありましたら、担任まで連絡してください。

住所・連絡先など変更がありましたら、必ず担任まで連絡してください。

御親戚や知人のご不幸や家の全壊など、さまざまに悲しい状況ではございますが、たゆみない努力と誠実な態度でこの時期を乗り越えていかれることを願っています。

草々

第三学年担任一同

校内清掃についてのアンケート

1月30日(月) 生徒指導部

震災後、校内も相当荒れているように思われます。

2月1日からの授業再開に支障がでないように、清掃の段取りを考えたいと思います。次のアンケートにご記入の上、本日中に鈴木までご提出願います。

ご氏名() 清掃担当箇所()

<様子>該当箇所に○をつけ、詳細を記入して下さい。

また、準備室、研究室等でも特記事項がありましたらご記入下さい。

(a)特に変化なし

(b)授業前に清掃が必要(その程度、清掃に必要な時間、必要な生徒数)

(c)かなりひどい(その程度、清掃に必要な時間、必要な生徒数、道具)

(d)その他(担当箇所以外でお気づきの点など)

1・2年生 育友会運営委員会

1995. 2. 1

甲陽学院高等学校

議 題

阪神大震災にともなう学校生活復旧について

①経過報告 山 田 教 頭

行事予定 山下教務主任

②今後の展望 学 校 長

(1)被災生徒などに対する援助について(副教材、文房具、昼食、その他)

資料 中 学 校 全壊 13戸、 半壊 42戸、

高等学校 全壊 22戸、 半壊 30戸、

(2)物故会員について

(3)通学困難地区生徒の授業対策について

③質疑応答

④学年別役員会

山 大	松 校	教 友	山
口 安	井 長	頭 國	静

2	A
2	B
2	C
2	D

1	A
1	B
1	C
1	D

保護者各位

甲陽学院高等学校長
中 村 泰 三

地震災害に関する報告

この度の阪神大震災により被害を受けられた多くの方々にお見舞い申し上げます。またお亡くなりになられた方々のご冥福を護んでお祈り申し上げます。

本校関係者にも残念ながら多数の犠牲者が出てまいりましたので、その被害状況をご報告申し上げます。

学校といたしましては1日も早く本来の授業を実施すべく全力を尽くしておりますが、当面は下記の形で再開せざるを得ません。保護者の皆様方の御理解、御協力のほど宜しくお願い申し上げます。

記

◎ 生徒・保護者関係

死亡 6名（御本人ならびに一親等以内の方に限らせていただきました）

中学1年 奥野正弘 君（神戸市灘区） 御本人、御両親

高校1年 日山直哉 君（神戸市東灘区）御尊父

高校2年 細江義章 君（西宮市津門町）御尊父

高校2年 吉田 忍 君（神戸市灘区） 御母堂

家屋 中学 全壊 13戸 半壊 42戸

高校（1・2年） 全壊 22戸 半壊 30戸

◎ 校舎・グラウンド等の被害

中学 校舎内水漏れ ロッカー・本棚倒壊 グラウンド防球フェンス損傷

高校 ガラス数枚破損 ウォータークーラー破損 ロッカー・本棚倒壊

テニスコート2面使用不能

◎ 行事の変更について

（1）2月1日より4時間授業を実施する（土曜日は2時間）

（2）2月10日の卒業式は、3月24日に変更する

（3）耐寒駆け足、耐寒登山は中止する

（4）学年末考査は中止する

（5）授業最終日は3月22日とする

（6）終業式は3月23日（予定通り）とする

（7）登校困難な生徒は公認欠席とする

（8）中学入試は3月1日～3日

高校入試は2月26日～28日 とする

付記

以上の事柄につきましては、2月1日に有友会運営委員会を開催し報告いたしました。

甲陽学院中学校、高等学校 兵庫県南部地震災害における特別校務分掌
'95. 2. 7

総責任者 学校長

中学校 運営 石川教頭、大川 教務副主任、大野指導部主任、山本事務長、

対生徒対策 石川、大川、大野、池田、北畑、石原、

被災生徒総括（見舞金など） 大野、（各担任）

避難住民に関する事すべて、 事務長、

（香ろ園小学校からの依頼、） 岡（講堂、体育館、グランド、使用）
ボランティア大阪、大阪ガス
入試に関する企画、運営、 大川、石川、（常務幹事）

その他（中学教職員の件も含む）石川、

高等学校

運営 山田教頭、山下教務主任、静総務主任、松井指導部主任、森事務長

対生徒対策 山田、山下、静、松井、山口、大安、妙島、

被災生徒総括（見舞金など） 松井（各担任）

入試に関する企画、運営、 山下、山田、

その他（高校教職員の件も含む） 山田、

その他

職員住宅修理、住居に関するすべて、 静、中村、
（今津社宅、よしはら社宅、）

教職員、臨時職員災害に関するすべて、静、中村、
（法人との関係分）

災害、共済組合手続きに関するすべて、森、山本、

以上のことに該当しないこと、 静、大川、中村、

* 災害時でありますので、各担当者で、仕事を 進行して下さい。
（校長）

平成 7 年 2 月 1 0 日

小 学 校 長 様
第 6 学 年 担 任 様

甲陽学院中学校
校長 中村泰三

謹啓 兵庫県南部地震で被災されました各位に心からお見舞申し上げます。また、日頃は本校の教育活動に一方ならぬご理解・ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、この度の地震により、本校の入試日程も変更のやむなきに至り、概略は新聞報道等でもご案内いたしました。詳細が決まりましたので、2月10日付けで、本校志願者の保護者宛に別紙のようなお知らせを郵送いたしました。ただ、被災された方々が避難されている場合も考えられ、本校としましては現在の住所を知るべく努力いたしました。何分この非常時につき、すべての方々のお手許に届かない恐れがございます。そこで、ご多忙中まことに恐縮ではございますが、貴校児童で本校志望者に、念のため別紙内容をご確認いただければ、幸甚でございます。

お忙しい時期に、勝手なお願いで、申し訳ございませんが、何とぞ事情をご賢察の上、よろしくお取り計らいくださいますよう、お願い申し上げます。

末筆ながら、貴校の益々のご発展をお祈り申し上げます。

敬 白

1995. 2. 10

入学志願者へのお知らせ

学校法人 甲陽学院中学校
辰馬育英会

兵庫県南部地震による災害のため、1995年度甲陽学院中学校入学検査の日程等を下記のように変更いたします。

記

1. 検査番号票

検査第1日目に直接手渡します(郵送はいたしません)。

2. 検査日程

3月1日(水)		3月2日(木)	
9:30	集 合	10:00	集 合
11:00~11:55	国 語	11:00~11:55	国 語
(11:55~12:45	昼 食)	(11:55~12:45	昼 食)
13:10~14:05	算 数	13:10~14:05	算 数
14:30~15:25	理 科		

※ 検査第2日目に予定していた面接は中止します。

なお、昼食には、本校食堂もご利用いただけます。

3. 合格発表

3月3日(金) 17:00頃、本校内に掲示

合格者は、発表後1時間以内に、玄関で、「検査番号票」と引き替えに「合格通知書」および入学に必要な書類を受け取ってください。

なお、可否についての電話によるお問い合わせはご遠慮ください。

4. 入学手続き

3月11日(土) 14:00 講堂集合(合格者および保護者)

書類の受け渡しと物品販売

受験生ならびに保護者各位

甲陽学院中学校
校長 中村泰三

このたびの兵庫県南部地震で被災された皆様に心よりお見舞申し上げます。
入試日程も変更のやむなきに至り、概略は新聞報道等でもご案内いたしました
が、左記のように詳細が決まりましたので、本日郵送の書面をもってお知らせ
いたします。

本校も被災いたしました。比較的軽微にとどまり、中学校・高等学校とも
2月1日から授業を再開いたしました。ただ、2月10日現在、中学校では
ガス・水道がいまだ復旧せず、教室の暖房設備が利用できない状態にあり、
3月1日からの入試で利用できるか、未定であります。そこで、暖房が利用で
きない場合を考慮して、考査場で着用できる防寒着をご用意願います。

また、集合時刻に間に合わない方につきまして、甲子園都ホテルの部屋を若
干用意いたしております。もし、宿泊をご希望される場合は、「甲陽学院中学
校受験生」であることをお申し出の上、甲子園都ホテル 宿泊予約係まで直接
お問い合わせ・ご予約くださいますようお願い申し上げます。

私ども甲陽学院職員・生徒一同、今回の災害にくじけることなく、むしろ
それをバネにして、一層の飛躍をはかりたく、決意を新たにしております。受
験生ならびに保護者の方々も、何かと大変と存じますが、是非気持ちを入れ替
えて、日頃の実力を十分発揮できるように入試に臨まれることを切に願って止
みません。

なお、中学校入試に関するご質問等がございましたら、中学校教頭 石川か
大川までご連絡ください。

甲陽学院中学校 TEL 0798-33-5012
FAX 0798-33-6010

甲子園都ホテル TEL 0798-41-2233

一泊(1人)	シングル	14,000円(朝食付, 税別)
	ツイン	11,500円(朝食付, 税別)
	トリプル	9,500円(朝食付, 税別)

1995年2月13日

様

学校法人 辰馬育英会

理事長 辰馬 伸彦

甲陽学院中学校・高等学校

校長 中村 泰三

立春の候 益々 ご清栄のことお慶び申し上げます。

この度の阪神大震災に際しましては、早々にご労惜なされるお見舞いを賜り、有難く厚く御礼申し上げます。

この度の地震で、残念ながら、中学生1名、保護者5名の尊い命を失いましたが、災害にくじけることなく、一層の飛躍をほかいなく、決意を新たにしております。

本校も被災しましたが、比較的軽微にとどまり、中学校、高等学校とも2月1日から授業を再開いたしました。

頂きましたお見舞いは、罹災生徒特別資金に役立てさせていただきます。

早速にお礼申し上げますべきところ、復興業務に紛れ遅くなりましたこととお詫し下さい。

取り急ぎお礼申し上げます。

敬具

1995年2月16日

育友会員各位

甲陽学院高等学校育友会長 友 國 隆

甲陽学院中学校育友会長 高 野 恭 一

このたびの阪神大震災により被災されました皆様に、心からのお見舞いを申し上げます。また、お亡くなりになられた方々のご冥福を謹んでお祈り申し上げます。

皆様方のご被害はいかばかりかと案じております。

校長先生はじめ教職員のご努力で各ご家庭の状況把握がなされ、詳細については先日の「地震災害に関する報告（2／6）」で発表されました。

この上は、ご被害が一日も早く復旧なされますことを心より祈念いたします。

尚、微力ではございますが、皆様のお役に立ちたいと甲陽学院中学校・高等学校育友会が中心になって学校と協力して、育友会予備費その他によつて「阪神大震災に関する生徒特別予算」をくみ、その一部をお見舞金その他とさせていただきます。

学校の方も完全復旧にむけて、万全の対策を講じ、最大限の努力をされていますがまだまだ時間を必要としそうです。皆様のご理解とご支援を賜りたく何卒宜しくお願い申し上げます。

1995年2月28日

保護者 各位

甲陽学院高等学校

ご 連 絡

1. 阪神大震災の被災者の方で、入学金・授業料等の学校納付金の減免または納付期日の延長を希望される方は、下記の日時に保護者をご来校下さい。教頭が個別に面談いたします。

日 時 3月1日または2日 午前10時～午後2時

場 所 本校校長室

2. 3月3日は学校が閉鎖になりますので、学校への連絡・問い合わせは3月1日、2日の両日にお済ませ下さい。

入学金・施設充実費の納付期限延長願

1995年3月4日

学校法人辰馬育英会 理事長殿

甲陽学院高等学校 学校長殿

審査番号 ()

氏 名

保護者氏名

3月4日が納付期限の入学金・施設充実費につきまして、納付期限の延長をお願いいたします。延長期限は辰馬育英会が表記の納付金の納付方法について、新たな決定をした時までとします。

また新しい決定に従うことを約束いたします。

1995.3.8.

欠席日数・欠科時数の扱いについて

甲陽学院高等学校

1. 月末統計上は従来通りの扱い.
2. 指導要録の記入について
 - i) 1月14日(土)までは従来通りの扱いとする.
 - ii) 1月17日(火)以降について

◎ 欠席日数について

授業日数から『出席停止・忌引き等の日数』及び
『1月17日以降の欠席日数』を引いた値を
『出席しなければならない日数』とする.
この場合, 『1月17日以降の欠席日数』を
『出席停止・忌引き等の日数』に加算して記入し,
『備考欄』に

阪神大震災により登校不能(ゴム印)
を押す.

◎ 教科の欠科時数について

教科担任 『1月14日(土)までの欠科時数』
を学級担任に報告する.
1年担任 指導要録に記入欄なし.
2年担任 教科担任から得た欠科時数を指導
要録に記入する.

1995年3月20日

甲陽学院高等学校

クラブ活動の再開について

1. 春休みまで

18:00 完全下校

生徒指導部へ届出ること

顧問が付添い、下校させること

2. 春休み

9:00～16:00

(ただし、24日は卒業式終了後より)

3. 新学期

18:00 完全下校

上記の時間に下校させるために

①放送(指導当番)

17:30 クラブを終え、下校準備

17:55 下校

②罰則

18:00 を超えた場合、警告

警告を2回うけたクラブは、活動停止

指導当番

17:00 → 18:00

土曜日に指導当番をしたときの取扱いについては

検討をお願いしています

以 上

1995年4月11日

保護者 各位

甲陽学院中学校
校長 中村 泰三

ご 案 内

陽春の候 皆様におかれましてはますますご清祥の御事とお喜び申し上げます。

さて、恒例の創立記念音楽会を下記のように開催いたしますのでご案内申し上げます。

この音楽会は昭和24年(1949年)に第1回を催して以来、毎年このゴールデン・ウィークの頃に開催してきておりますが、その第47回目の今年は、その準備を始めようとした矢先き、今回の大震災が発生、一時は中止もやむを得ないと考えておりました折、その頃にちょうど来日しておられる予定のJÖRG DEMUSさんから、被災地の皆さんにPIANOを通じて、少しでも心を癒し、励ましになるのであれば喜んで時間を作りましょうとのことから、今回も開催することができました。ただ会場は、従来の高等学校では交通アクセスの復旧もしていないこともあり、香櫨園の中学校講堂となりました。

なお、ご入場につきましては、会場の都合により、整理券をご持参の方に限らせていただきます。つきましては希望枚数(生徒一人につき3枚まで)を申込書にご記入のうえ、4月15日(土)までに担任にご提出下さい。

記

日 時 1995年4月29日(祝) 12:30開演
場 所 本学院中学校講堂
阪神香櫨園南西・香櫨園テニスクラブ北側

以 上

.....✂.....✂.....✂.....

1995年4月 日

申 込 書

第47回創立記念音楽会の入場整理券を 枚申し込めます。

年 組 番

生徒氏名

保護者各位

學校法人辰馬育英會
甲陽學院中學校
校長 中村 泰三

先般ご案内いたしました創立記念音楽会の入場整理券の申し込みは4月15日(土)を以って締め切りとさせていただきました。その結果、高等学校・中学校あわせて1350名をこえる皆様からご応募をいただき、誠にありがとうございました。

しかしながら、開催場所となります講堂の収容能力の限界をはるかに超え、ご希望とおり入場していただくことが不可能となりました。

そこで、本公演の演奏者デームス(JÖRG DEMUS)氏の格別のご厚意により、1回の公演ではなく、午前と午後の2回の公演を持つこととなりました。

来日中の厳しいスケジュールの中で、特に本学院のために一日に2回もの公演をご快諾くださいましたデームス(JÖRG DEMUS)氏のご厚意にお応えするためにも、お申し込みいただきましたすべての皆様のご来場をお待ちいたしております。つきましては、生徒を通して既にお申し込みいただいた皆様には入場整理券をお渡しいたしますので、当日、受付でご提示ください。

なお、下記の要領によりご来場いただきますようお願い申し上げます。

14

JÖRG DEMUS イョルク・デームス ピアノ リサイタル

日時：1995年4月29日(祝) 第1回公演 開場：9:30 開演：10:00
第2回公演 開場：12:30 開演：13:00

場 所 : 甲陽学院中学校講堂

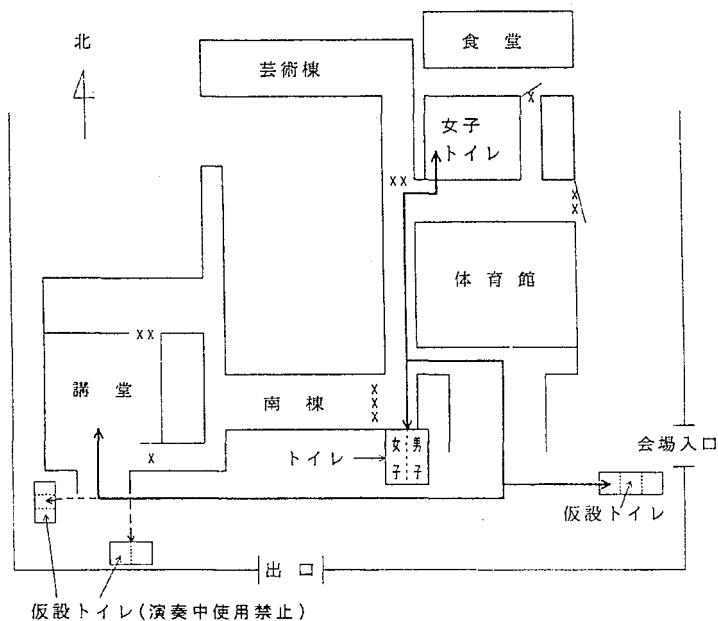
対 象 : 第1回公演 中学校に整理券を申し込まれた方々
第2回公演 高等学校に整理券を申し込まれた方々

甲陽学院中学校生徒諸君へのお願い

4月29日(金)創立記念音楽会当日は、東校舎内への立入りを禁止します。
また、トイレは下図にあるものを使用して下さい。(体育館北側のトイレは女子専用としますので、使用しないで下さい。)

なお、中学生並びに中学で整理券をもらわれた方(整理券番号1001番以降)は、10時からの演奏(開場 9:30)を鑑賞して下さいるように、周知徹底を再度お願いします。

甲陽学院中学校 西校舎 概略図



お願い

演奏中、講堂南側の仮設トイレのご使用はご遠慮下さい。

(演奏中にやむを得ずトイレをご使用になる場合は、体育館南の
トイレをご利用願います。)

1995年6月

MARCH OF THE MUSIC実行委員会

実行委員長 内野 二郎 殿

〒 4 5 0 0 0 1 愛 知 県 豊 田 市 豊 田 区 東 山 1 番 地
財 団 法 人 豊 田 市 立 中 学 校

校 長 中 村 泰 三

拝啓 うっとおしい天候が続いておりますが、貴下にはいかがお過ごしでしょうか、お伺い申し上げます。また、この度は「音楽教材のための支援寄付金」を賜り、厚くお礼申し上げます。

震災による被害は校舎をはじめ多岐に渡っておりますが、とりわけ音楽教材への打撃は大きく、自助努力のみでは復旧し難いところでございました。貴実行委員会をはじめとする各方面からのご支援はまさに「干天の慈雨」でございまして、今では震災以前と同様の授業を進めるところまで回復いたしました。貴実行委員会から賜りました「音楽教材のための支援寄付金」は、アルト・サクソフォン及びコンサート・バスドラム の購入費用の一部に当てさせていただきましたが、秋に開催されます「音楽と展覧の会」で大きな役割を果たすものと期待しております。

この上は、貴実行委員会をはじめとする各方面からのご支援に応え、一日も早い全面復旧のための努力を重ねて参りたいと存じます。誠に有難うございました。

末筆ながら貴実行委員会の一層のご発展をお祈り申し上げます。敬具

平成7年6月15日

保護者各位

甲陽学院中学校

校長 中村 泰三

阪神大震災に伴う入学料授業料等特別軽減申請書提出について

このたびの阪神大震災によって、被災されました皆様に対して、心からお見舞い申し上げます。

さて、当学院では、被災されました生徒を対象に、入学料授業料等の軽減をすでに実施いたしました。

つきましては、お手数とは存じますが、同封しました「入学料授業料等特別軽減申請書」に必要事項を記載、捺印の上、甲陽学院中学校事務室あてご返送賜わりますようお願い申し上げます。

平成7年6月26日

保護者各位

甲陽学院中学校

校長 中村 泰三

被災生徒教育助成金交付申請書提出について

兵庫県南部地震により被災された新入生を対象に、兵庫県南部地震災害義援金募集委員会より、新入生に助成金が支給されることになりました。

よって、同封別紙交付申請書に必要事項記載の上、7月5日（水）必着で、甲陽学院中学校事務室あて、ご返送いただきますようお願い申し上げます。

学校長確認の上、西宮市教育委員会へ送付いたします。

1995.7.24

保 護 者 各 位

予 後 法 人 甲 陽 学 院 中 学 校
校 長 中 村 泰 三

盛夏の候、皆様には益々御清祥のことと申し上げます。日頃は本学院の教育に一方ならぬ御協力・御理解を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、本学院では、第一学期の間、始業時刻を9時5分(9時予鈴)としておりましたが、第二学期からは右記のように従来の8時30分(8時25分予鈴)始業に改めさせていただきますので、御了解ください。

なお、各交通機関の時刻表等に変更もあるかと思しますので、御確認の上、遅刻のないよう御家庭での御指導よろしくお願い申し上げます。

予 鈴	8:25
本 鈴	8:30
第1限	8:35—9:25
第2限	9:35—10:25
第3限	10:40—11:30
第4限	11:40—12:30
予 鈴	13:15
第5限	13:20—14:10
第6限	14:20—15:10

また、第一学期の成績通知表は、7月中には郵送する予定であります。万一、8月10日を過ぎてもお手許に届かない場合は、学校まで御連絡ください。第二学期以降に関しましては、慎重に検討を重ねました結果、従来のように終業式の日に通達表を本人に手渡すことに決定しましたのでお知らせ申し上げます。

第二学期は、勉学に絶好の時期であるとともに多くの行事がひかえてあります。より一層充実した学期にするためにも、有意義な夏休みを過ごされますよう期待いたしております。



阪神大震災を惟う

同窓会長 高 垣 雄 二 郎

阪神大地震の被災の皆様へ、心からお見舞い申し上げます。地震により、尊き命を亡くされた方、お家族の皆様、哀悼の意を表します。合掌

一月十七日午前五時四十六分、悪夢はまさに現実となり、兵庫県南部、阪神地方に過去最大の地震が発生しました。阪神地方の多数の皆様方には、大変苦難の時期を、お越しになられたこと、お見舞い申し上げます。

ご承知の通り、当初は分からぬまま、暗黒の一夜を過ごしました。が、やがて刻々と入る情報に、甚大なる被害が、明かになって参りました。先ず私の脳裡には、甲陽学院同窓生の安全が気掛りとなり、皆様の情報を把握することが第一番であると痛感しました。

早速、一月二十日には、災害対策本部（本部会長、会務を設け、通信線の回復をまつて、理事の皆様、災害対策本部員をお願いして、会員各位の安全、情報収集に主力をあげることにしました。部員の皆様には、時分柄、ご多用の中、大変なご努力をして頂き、お陰で大方の情報収集をでき得ました事、厚く御礼申し上げます。

それに基き、之が対応策として、皆様のご同意を得るため、三月二十四日開催の役員総会にお諮りしました次第です。

この様な重大な苦難の時期にこそ、お互いに手をとり合つて、助け合い克服することは、親睦を旨とする同窓会活動の使命であると、信じておりますが、皆様の充分なご期待に副い得な

かつたこと、大変残念に思つて居ります。

さて、会則改正委員会の皆様に、より、二年越しに会則改正の検討を重ねて参り、その改正案を役員総会に上程し、可決、本年四月一日より改正会則施行の運びとなりました。

之に基き、三つの委員会が発足、特に二年後、母校創立八十周年を迎えて、その記念事業委員会が組織され、ここから種々企画案が練られております。どうか会員の皆様と申しご意見を頂戴できることを、お待ち申し上げます。

次、八月にはその名もあらため「会員総会」が開催されます。是非共にお誘い合わせの上、多数の皆様のご出席を、お待ち申し上げます。

席上、久方振りに皆様とお目にかかり、地震につづく暗いニュース、不景氣風を吹飛ばして大いに語り合ひ、楽しいひとときを過ごし度いと思います。是非お越し下さい。

甲陽だより

発行所

甲陽学院同窓会
電話 西宮 (0798) 21-4888 (代表)
編集 高垣雄二郎
印刷 印刷所
印刷 株式会社 合同印刷
印刷 株式会社 合同印刷
印刷 株式会社 合同印刷

同窓会専用電話
0798-71-4888
月・水・金曜のみ
(同窓会に御用の方はこの電話を御利用下さい)

平成7年8月26日(土)

会員総会開催

本年は、阪神・淡路大震災という未曾有の天災が起こったため、亡くなられた卒業生もおられますし、その後の復旧・復興作業も現在進行中のまっただ中の方々も多数おられます。従って例年実施しています講師をお招きして講演をお願いするというような企画は一切控えることに致しました。詳細は12ページをご覧ください。

— 大震災 —

1995年 1 月17日 午前 5 時47分

被害 情 況

このたびの阪神大震災に於きましては、我が甲陽学院同窓会の中でも多数の被害がでした。なかでも特に遺憾の念に耐えないのは、多くの同窓生の方、ならびにその御家族が、この震災のためになくなられたことです。そのような不幸に見舞われた方のご冥福をお祈りするとともに、残された御家族の方には心からお悔やみ申し上げます。そして、同窓会事務局で把握できた範囲で、それらの方々の、卒業回数とお名前を掲載させていただきます。

商1 松井弘雄 御夫人
糸井卓夫 御夫人
3 村上吉胤
5 豊原大潤 御夫人
7 山内喜一郎 御夫人
20 佐野定敏
21 溝口泰三
22 中出敏郎
23 後藤彪
24 喜多真弓 御母堂
30 北田典男 御兄弟
34 前田英雄 御夫人

35 畑谷昌稔
43 長宅喜雄
47 井上政民 御兄弟
49 榎本滋 御兄弟
大塚俊昭 御両親
翁政立 御兄弟
増田潤 御母堂
安福和夫 御兄弟
50 三木真介 御母堂
53 益田亮二 御両親
55 益田幸 御両親
58 川添泰伸 御祖父
71 飛澤見彦 御祖父
72 後藤勝 御祖父
73 中野祐也 御母
74 阪下卓 御祖父

今回の震災では、先ほど掲載いたしました御亡くなりになられた方々のほとんどが、家屋の損壊の結果です。不幸中の幸いと云つていいのかわかりませんが、かろうじて御命だけは助かったものの、家屋を無くされて大変な思いをした、あるいは今もされている方は、甲

陽学院同窓会の皆様のあいだにも大勢おられます。本来なら、同窓会事務局で把握できた範囲で、家屋の損壊を受けられた方々全員のお名前を掲載すべきなのですが、余りにも人数が多いので、今回はとりあえず全壊の目にあわれた方々のお名前に限り、掲載させていただきます。(敬称略)

商1 財田良夫
黒田隆弘
松井弘雄
相原一郎
糸井卓夫
西鼻実
商2
工2 久保哲也
宮川順夫
1 西松龍一
3 村上吉胤
5 豊原大潤
6 山住六良
7 浅井三郎
8 河本承三
9 山内喜太郎
赤井常隆
田中二郎

11 山上史朗 朝比奈貞雄 伊藤泰太郎 森本成巳 永井博 富田中 村田茂 高橋芳夫 上住和平 柳原定敏 佐野敏 藤出口泰三 溝口敏郎 堀部福純 松尾登夫 太田省吾 伊藤雅也 大塚康雄 中島進 坂田保夫 有山寿一 大芦民男 大川四津雄 勝間信治 高野昭二 松成敏 湯川哲男

34	33	32	28	27
鈴山森前村高近安鈴宮川干河曾大細橋林阿北柴松津宮佐船塚高池鮎渡				
木本 田田木藤原木内原貝合山原井 河田垣本路川伯野本瀬田谷辺				
博雄達英真 弘信章哲関孝 _三 健雄敏典一節安三照和恵幸栄和正				
信介哉雄章章文也司郎也郎仁睦靖隆彦二之夫徳雄夫郎明夫造壮一孝雄				

44	43	41	40	39	38	37	35
荒藤澁長本西喜 _多 東吉松南戸田金大栗若丸勝鶴逸江太吉西畑太安矢飯荒							
木原谷宅庄村村野本本野根宮井賀村狭一呂田見崎田田田谷田富田田木							
慶 喜義栄和吉浩敏 榮孝誠 忠 和真健勝雍元昌佐 _喜 昌安							
知二元雄信祐義秀三夫勝伸郎憲剛洋博雄聡成二郎博一次稔夫勇健弘正							

68	64	61	58	55	54	51	49	47	46
前秦長柴海河山川生大湯平橋中阪柏三十生東深菊多古翁越大池森千矢竹									
田野沢田辺本井添駒川川松本村西原尾島桑澤山田林 知前内井草切内									
育義正祥成泰孝貴英 俊修達 _之 良高一 光政昭敬俊 宗芳健									
健実範朗治一良伸大史彦新宏豊朗博司助人士男茂一民夫一彦宏郎彦三									

75	74	73	72	71
河高田伊中島鈴竹上市今飛山細花中堤田笹北木秋谷吉出山				
瀬地辺藤村野木内杉成村澤本川木島 中倉林村山口山口内				
伴知大 尚信 武浩岳晃 貴俊 英伸亮勝豊和 貴				
寛洋哉輔亮典輝亮弘志司彦晋史博大健剛司夫平則人秀弘弘				

会員だより

同期には、それだけに誇るべき傑物、変わり種も多い。

叙職組は文豪の吉田文雀師（塚本和男君）をトップに今春は毛利治郎君、実業界は勿論、法曹、教育、文筆、スポーツ中央競馬と各界に名を馳せたものです。

今や戦後五十年、六十六歳となって更めての合同開催でした。動員先の間へ、桑原善男元役員をお迎えして久々のおしゃべり会。阪神大震災の被災や息子、孫の甲陽進学などが話のタネとなっていました。

次回には、さらに呼びかけの輪を広げて余生を案しむ同窓会に致したく、会報に拙文を寄稿致しました。

（原田記）
連絡先 ○六一四五一

一〇六一四番 武田工作所 武田克己

35回

東京地区 在住者の集い

前略 夫る平成七年八月二十八日 我々 第三十五回（昭二十九）卒業生で首都圏在住者の内、連絡のとれた有志で「還暦の集い？」を催し十四名が集まりました。平成七年八月二十八日午後六時より 銀座スエヒロに於いて

当日の出席者氏名
阿部 隆 荒木安正
植野忠海 内田真朗
岡本弘昭 砂村 賢
高田英一 長縄伸也
濱尾 仁 廣本 健
峯 博 山崎一夫



吉田恭平 吉田龍二
連絡先、〇四七三三八
三―三七四〇 濱尾 仁

40回

学年同期会報告

この同期会の話が出たのが三月のことでした。一月十七日に大震災が阪神、淡路を襲い、我々の学年でも、大きな被害を受けた同期生に対する何らかの援助が取り沙汰されていた頃です。「今年の



同期会は中止すべきた。「いや、こんな時だからこそ行うべきだ。何かと議論の多いことでした。今回の幹事六名が、お互いに電話やFAXで連絡を取り合い、相談のために何回か顔を合わせ

ました。その結果、ただ集まるだけではなく何か特色を出そう、というこ

とで計画されたのが震災をテーマとしたシンポジウムでした。

七月一日、甲子園都ホテルで、恩師の先生方十一名のご来席を得て同期生五十名が参集しました。先ず第一部としてシンポジウムが中川徹、金井孝憲両君の司会で始まりました。演題は次の通りです。

（一）直接的に被災した立場から 樽本 正弘
（二）大震災の被災体験 松本 敏夫
（三）震災の恐ろしさとその後の生活 中西 孝一
（四）灘五郷の被災と復活 矢野 光男
（五）ビル管理士としての震災体験 戸井 敏敦
（六）震災の救済経験か

らみた緊急時の医療体制のあり方 小味潤智雄
（七）建築士および僧侶としての震災に対する感慨 高口 恭行

第二部のバーディーは、昨年退官された小河清麿前校長先生への記念品贈呈に始まり、各恩師のご挨拶、同期生のスピーチで会もたけなわとなり、次回幹事選出でして校歌斉唱で無事に幕を閉じました。

中島久前教頭先生から「良く企画された素晴らしい会でした」とのお言葉をいただいたき、幹事一同、ホッと急に酔いがまわってきたようでした。（小味潤記）

会員だより

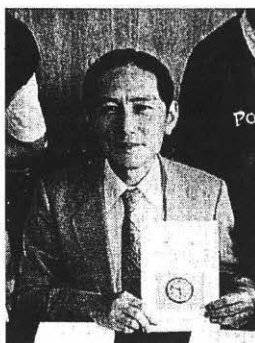
余滴

『阪神・淡路大震災 生徒作文記録集』（兵庫県高等学校生徒指導協議会、一九九五年一月三〇日）には、山本健太郎「被災した私」、平松慎也「私の目にした光景」が収録されている。どちらも『甲陽』第三三号（甲陽学院高等学校出版委員会、一九九五年五月一七日）からの転載である。

また、『兵庫県南部地震私立学校記録集』（兵庫県私立中学高等学校連合会、一九九六年三月一五日）には、西村大典「瞬時の変貌」一月一九日、西宮北口から高校へ」が、同じく『甲陽』第三三号から転載されている。

兵庫県私立学校を対象とし、本校が回答した各種アンケート結果は、前記の記録集以外に、中塩健彦氏（元、松蔭中学高等学校校長）が行った報告資料二種（各学校への発送日付は一九九五年七月一〇日と一九九六年七月一五日）に記載されている。

被災体験生かして



素晴らしい記録集となった。

授業で、震災直後の被災地の様子や人々の行動を作文にするよう呼びかけた。二年生百六十九人と三年生三人が手記を寄せ、会報として発刊した。

山内教諭は「生徒も歴史の生き証人。震災体験をつづることで、命の大切さや防災意識が高められたはず。これらの経験を生後の人生に生かしてほしい」。

西宮市角石町の私立甲陽学院高校の生徒たちで「甲陽 阪神大震災待った」をつづる出版委員会が、震災の顧問を務める山内英生らの手記を集めた会報にも鋭い感性がのぞく。